

# テレビドラマにおけるジェンダー問題

中嶋 海渡

本稿では、近年のテレビドラマ作品が現実社会のジェンダー問題をどのように描いているのかを明らかにするために、先行研究に基づいて対象作品を男性同性愛者の恋愛を描いたものに限定し、腐女子とLGBTに関する言説分析と男性同性愛者の描かれ方に関する描写分析を行った。言説分析においてLGBTに関するレビューの割合が多い作品では、登場人物が「親との衝突」や「自身のセクシュアリティの葛藤」といった現実社会のLGBT問題と向き合った世界が描かれる傾向にあり、腐女子に関するレビューの割合が多い作品ではそういった問題が排除された現実社会が理想とする世界が描かれる傾向にあることが明らかとなった。描写分析では対象作品において男性同性愛者に対する差別・偏見描写はそれらが誤ったものであるという指摘が登場人物によって行われるという特徴があり、当事者に対して肯定的なメッセージが示されていることが明らかとなった。また、先行研究で問題とされたセクシュアリティの混同を招くような男性同性愛者に対する過度な女性性の強調に関する描写は対象作品においてはみられず、近年のテレビドラマ作品では従来のジェンダー問題は解消されつつあることが明らかとなったが、当事者の家族に対するカミングアウトの困難さや男性同性愛者が男性性と女性性を合わせ持つハイスペックなキャラクターとして描かれることによる新たなステレオタイプの表出に関する問題は残されたままであり、より詳細な研究が必要である。